

各 位

会 社 名 株式会社ニッセンホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 片山 利雄
 (コード番号 8248 東証・大証第一部)
 問合せ先 執行役員財務本部長 石畑 成人
 (T E L 075-682-2041)

第 2 四半期連結累計期間業績予想の差異に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 23 年 1 月 31 日の平成 22 年 12 月期決算発表時に開示した平成 23 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間(平成 22 年 12 月 21 日～平成 23 年 6 月 20 日)の業績予想と実績に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 第 2 四半期連結累計期間(平成 22 年 12 月 21 日～平成 23 年 6 月 20 日)の業績予想と実績の差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	70,000	1,200	1,300	1,050	20.67 円
今回実績 (B)	69,359	1,631	1,786	1,211	23.86 円
増減額 (B-A)	△641	431	486	161	—
増減率 (%)	△0.9	35.9	37.4	15.3	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 12 月期第 2 四半期)	68,172	1,279	1,627	1,494	29.42 円

2. 差異の理由と今後の見通し

当社グループの主力事業である通販事業の株式会社ニッセンにおきまして、売上高は期初から堅調に立ちあがり、3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響があったものの、戦略的な価格設定を実施したことにより家具・インテリア商品の受注が好調に推移し、前回発表予想時の第 2 四半期の見込み(以下、「前回見込み」)どおりの着地となりました。一方で、円高による原価率改善、継続的なコスト削減活動によるフルフィルメント費などの減少、さらには広告宣伝費や販売促進費が計画を下回る水準で推移した結果、営業利益及び経常利益は、前回見込みを大幅に上回ることとなりました。

以上の状況により、第 2 四半期連結累計期間の連結業績数値につきまして、前回見込みより売上高は 641 百万円の減少、営業利益は 431 百万円の増加、経常利益は 486 百万円の増加、四半期純利益は 161 百万円の増加となりました。

なお、足元の業績は堅調ながら、震災発生以降、消費環境が大きく変化しており、景気の先行きについては予断を許さない状況にあるため、通期の連結業績予想に変更はございません。

(注) 上記に記載した予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績については当社及び当社グループをとりまく様々な要因により、記述されている業績予想とは異なる可能性があります。

以上